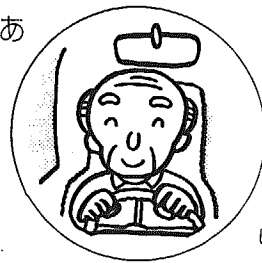


運動能力や反射神経の衰えを自覚しよう

交通事故で死者が出たと聞くと、あなたはどんな事故を思い浮かべますか？ 幼児の飛び出しや若者の無謀運転などによる、低年齢層の犠牲者をイメージする人が多いのではないのでしょうか。

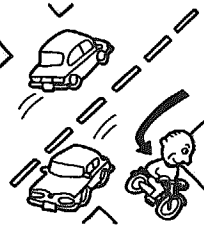


ところが、ここ数年で目立って増えているのは、お年寄りの死亡事故なのです。昨年はついに若者の死者数を上回り、交通事故による死者総数の27.4%が、65歳以上のお年寄りとなりました。

年をとれば、だれでも運動能力や反射神経が衰えます。しかし、それを自覚しない方も多ようです。そのため、つい無理な飛び出しや横断をして事故に遭うのではないのでしょうか。ここでは、特に気をつけたい注意点を、データを交えて紹介します。

慌てない、急がない、無理をしない

事故の約7割は歩行中や自転車乗用中に発生しています。道路を横断するとき、自転車などで交差点を曲がる際には、特に注意が必要です。



夜は自転車やバッグに反射材をつけ、ドライバーに目立つような意識を



歩行中の死亡事故は、薄暮から夜の時間帯に多く、特に午後4~8時にかけての事故の発生が全体の4割近くを占めています。夜間の事故防止には、車のライトを受けて光る反射材(テープ、プレートなど各種市販されている)が有効です。

“慣れ”に頼らない慎重な運転を

自動車乗車中のお年寄りの事故死者数が、ここ5年間で倍増(昭和63年、199人→平成5年、501人)しています。最近では高齢のドライバーも増え、“交通弱者”とされるお年寄りが、一転、加害者になるケースも少なくありません。

交通安全の意識をより深めてもらうため、昨年からお年寄りを対象に行われているのが「参加・実践型交通安全教育」です。

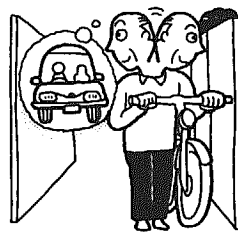
これは、これまで主に行われてきた講義中心の交通指導に代わる、より実践的な“体験型”の指導講習会です。講習は、毎年、各都道府県の二つの市町村で順次開かれ、事故現場の視察や実験、運転の実技研修などを行っています。その内容の一部を紹介しましょう。

【夜間事故防止コース】

反射材の効果や無灯火自転車の危険性の実験。車の運転席からは意外に周囲が見えていない実態を体験します。

【自転車運転実技コース】

信号機のある交差点の右折、踏切の横断方法などを実習し、注意点を確認します。



【事故事例研究・討論コース】

小人数のグループで事故例の詳細を研究し、問題点を討議することで、交通安全意識の理解を深めます。

実験では、車が人形をはねるといったリアルな場面も再現されます。参加者からは、「事故の怖さを実感できた」「交通ルールの大切さを知った」などの感想が寄せられています。

講習は、お年寄り自身の安全に役立つだけではありません。お年寄りが家庭や社会で交通安全の指導者としての役割を果たすという、二重の効果が期待されているのです。

※講習会のお問い合わせは、各都道府県交通安全対策担当へ

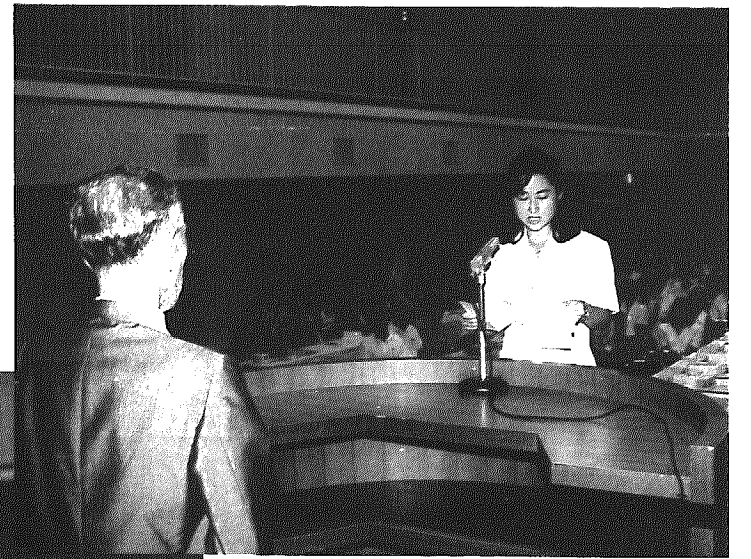
注意点を心かげたい3つのポイント

体験型のお年寄りの交通安全教育

平成6年度 第45回

成人式

8月15日 農村環境改善センター



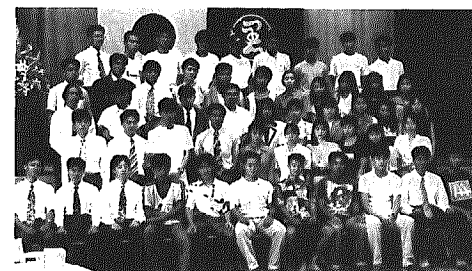
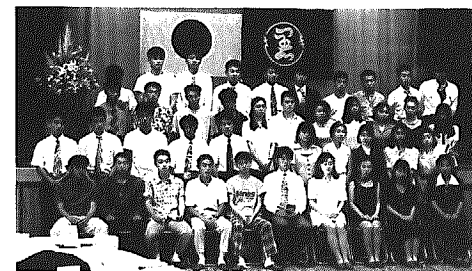
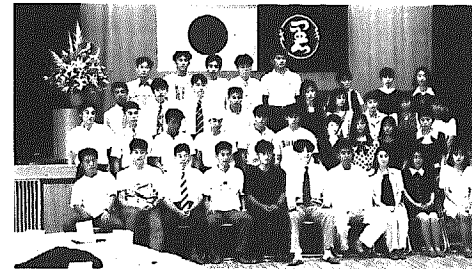
写真/上 鈴木佐知代さんの宣誓。左 笹川弘康さんの答辞。左下3枚 記念撮影。黒崎中学校に通っていた当時の、上から1~3組、4~6組、7~9組にわかれて撮った。一番下右 澤村哲郎さんの記念講演。

なつかしい顔が改善センターに介する
成人式に百五十人が参加

八月十五日(月)、農村環境改善センターで平成六年度の成人式が行われました。

今年度の成人式対象者は昭和四十八年四月二日から四十九年四月一日までに生まれた人四百二人(黒崎中学卒業生三百六十二人、転入した人四十人)で約百五十人が参加しました。

式典は午後一時三十分から始まり、町長の式辞、教育長の励ましの言葉のあと、成人を代表して鈴木佐知代さんが宣誓し、笹川弘康さんが答辞を述べました。そのあと、新潟県サッカー協会理事長で黒



崎高校教諭の澤村哲郎さんが「一生青春 一生感動 一生燃焼」と題して記念講演を行いました。講演のなかで澤村さんは、「私は、夢を追いがら子供たちを指導してきました。また、ワールドカップを誘致し、新潟にJリーグのチームをつくれるように努力しています。これから先も夢への挑戦は続くでしょう。皆さんもどうか自分の人生に目標をたて、そしてそれに負けずに燃焼してほしいと思います」と話し、新成人たちは感銘を受けていました。



祝

成人